

外傷性左内腸骨動脈瘤

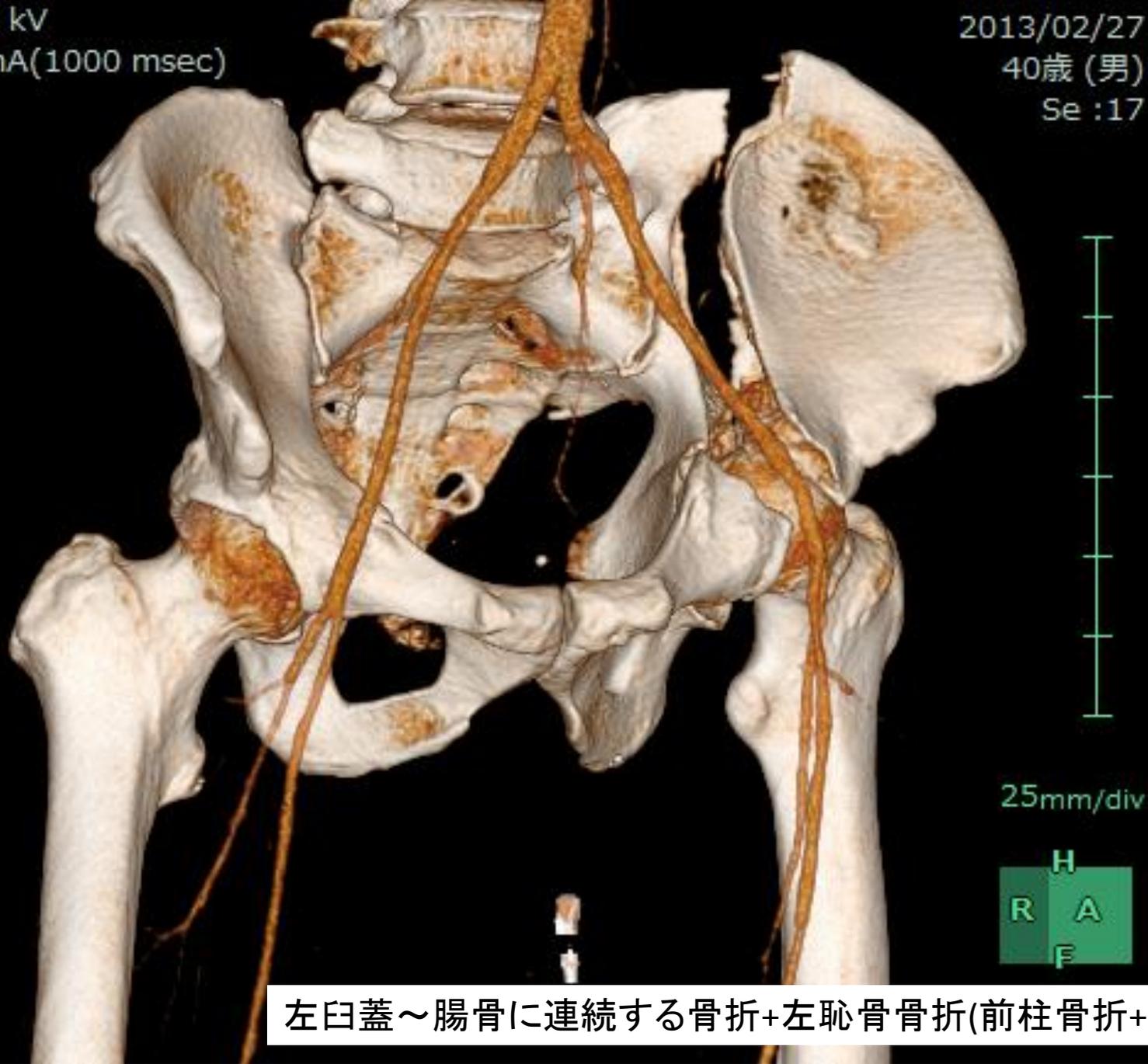
40歳代 男性

- 停車中のトラックに70mk/hrで追突。
- 両下腿と腹部がハンドルに挟まれ、救出に1時間
- 2013/02/27



120.0 kV
165 mA(1000 msec)

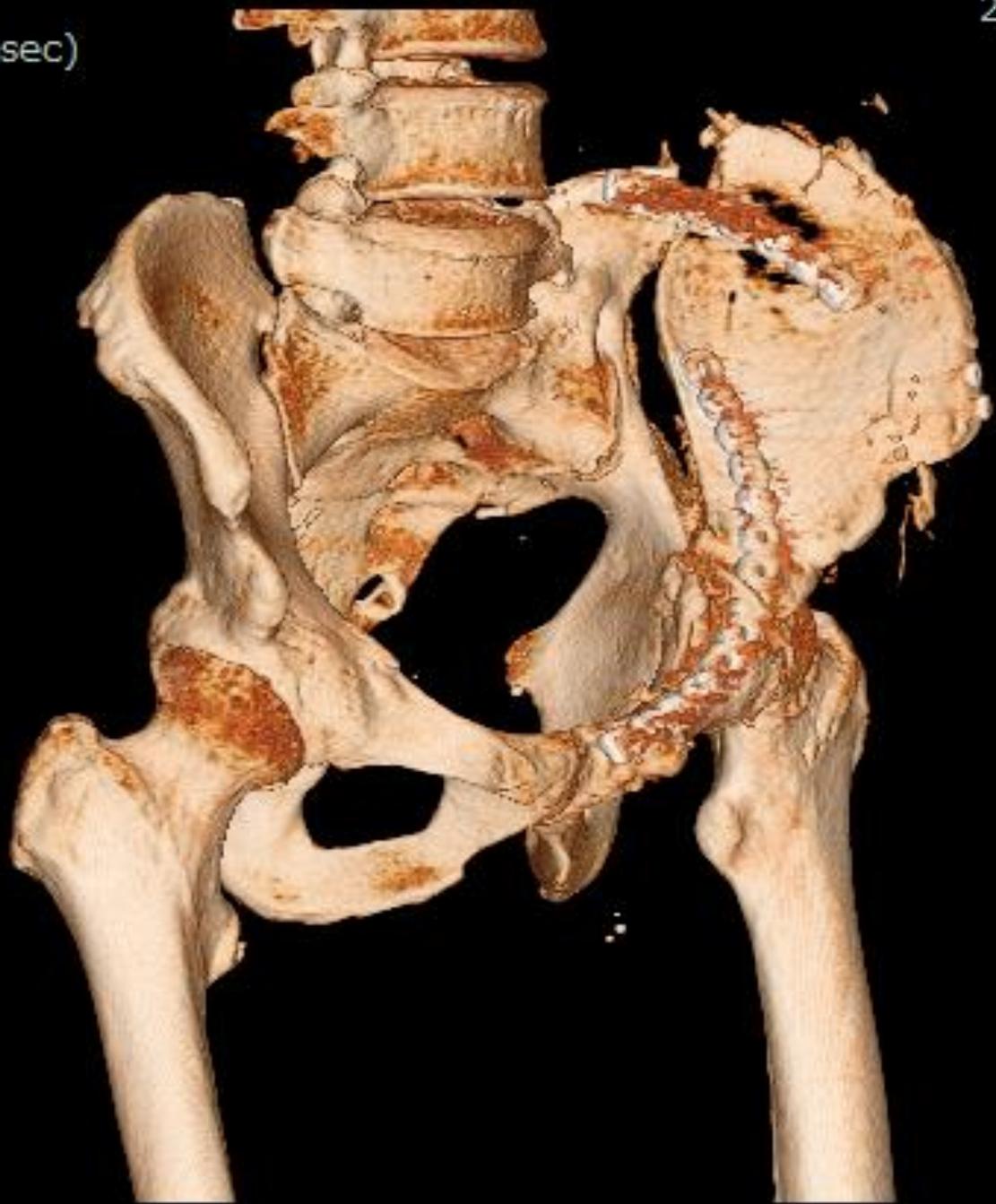
2013/02/27
40歳(男)
Se:17



左臼蓋～腸骨に連続する骨折+左恥骨骨折(前柱骨折+横骨折)

120.0 kV
202 mA(500 msec)

2013/05/01
40歳 (男)
Se : 7

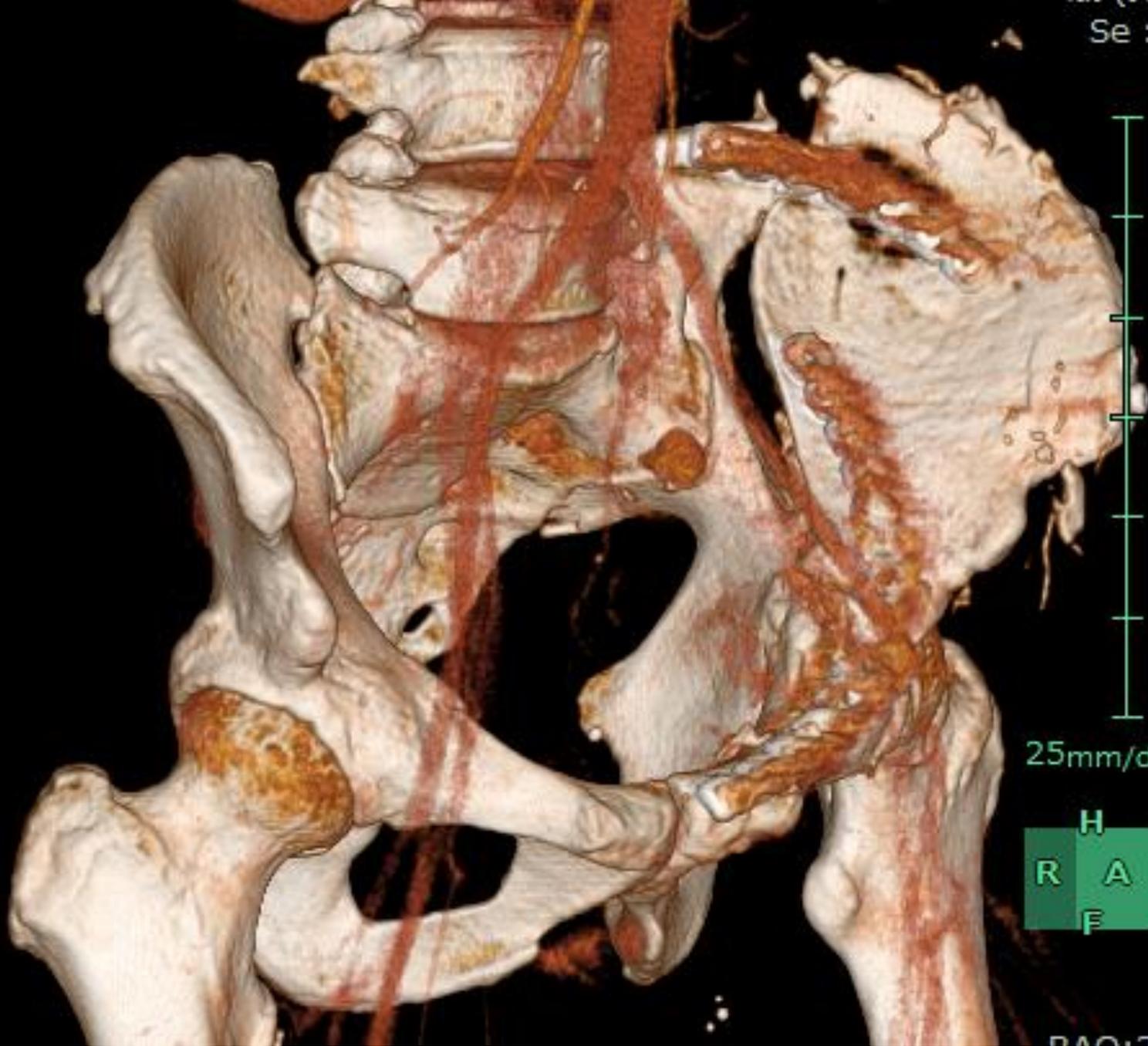


25mm/div





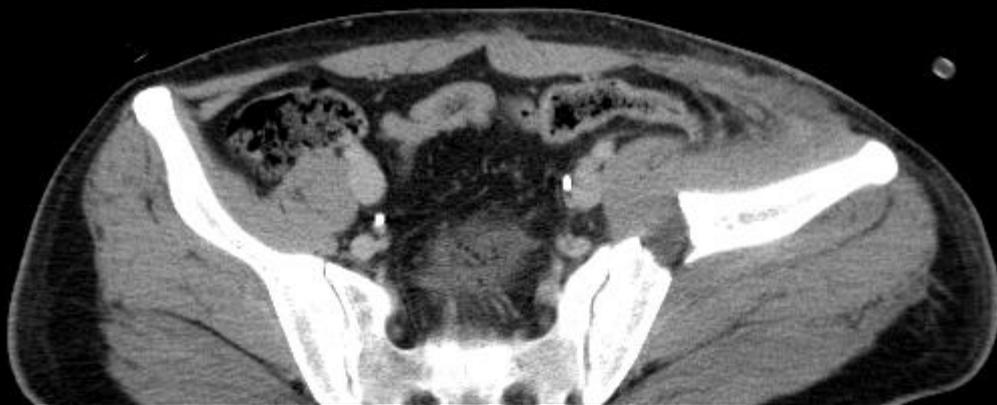
Se : 4



25mm/div

H
R A
F

PAQ:20



03/11

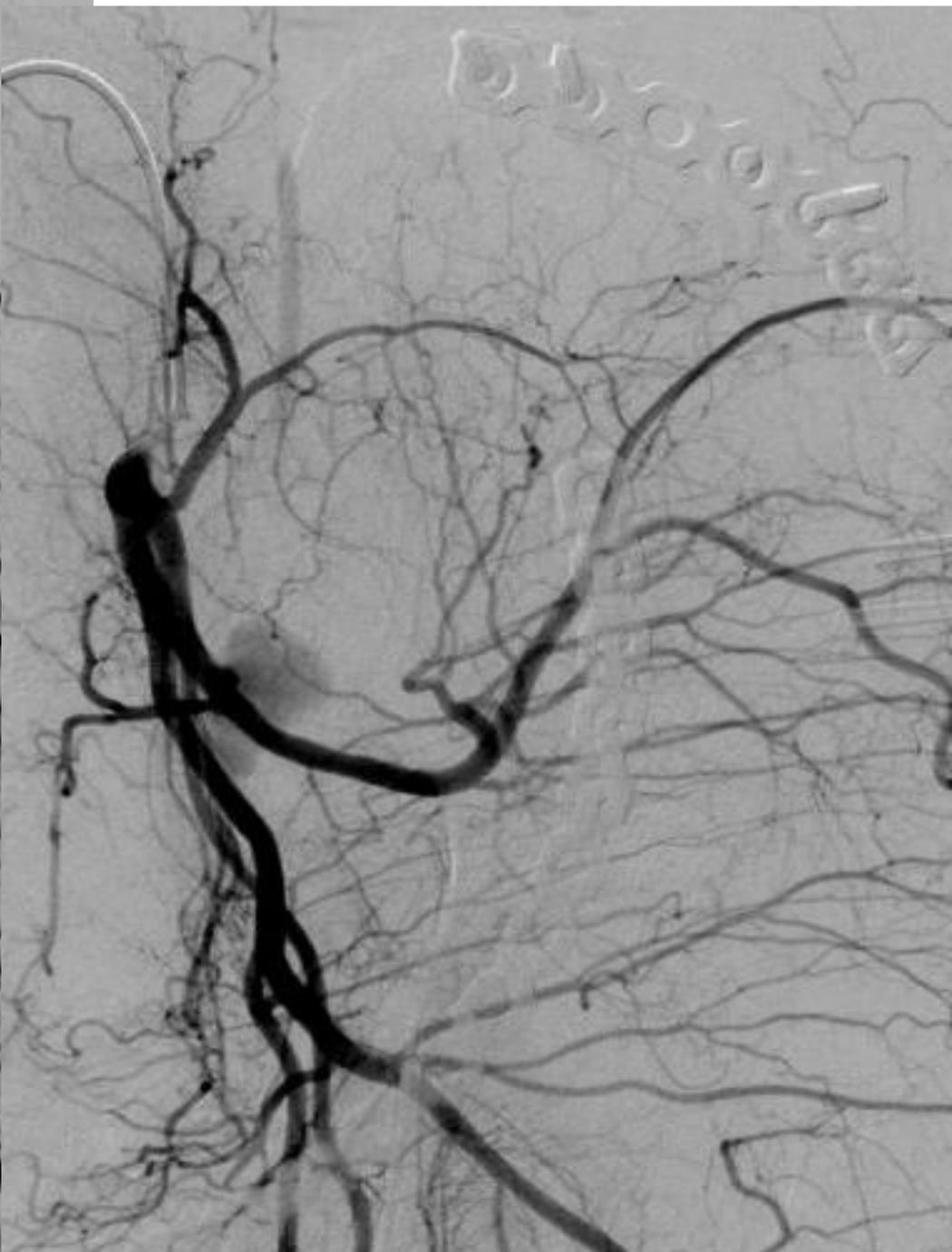
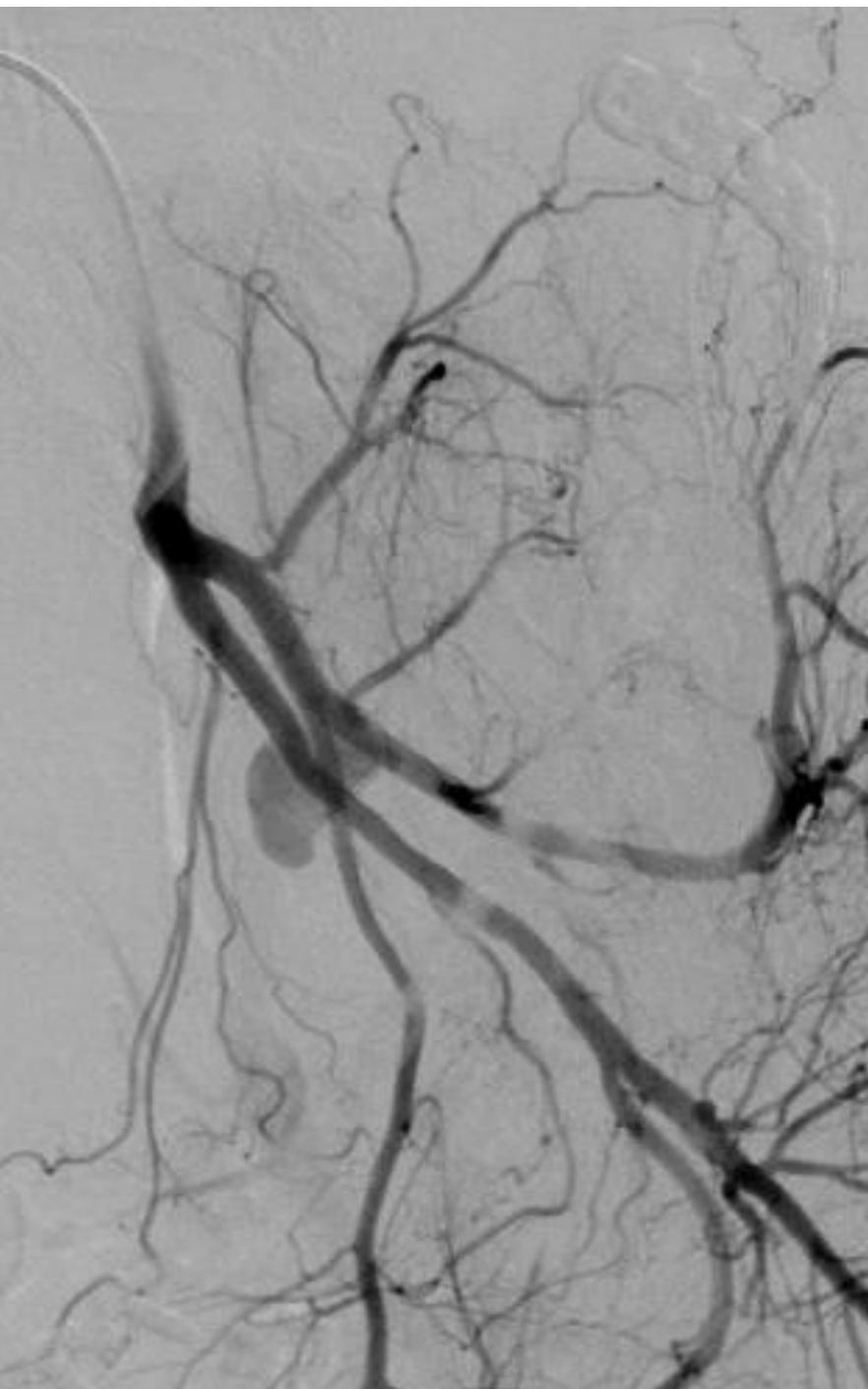


03/12 骨盤内固定術



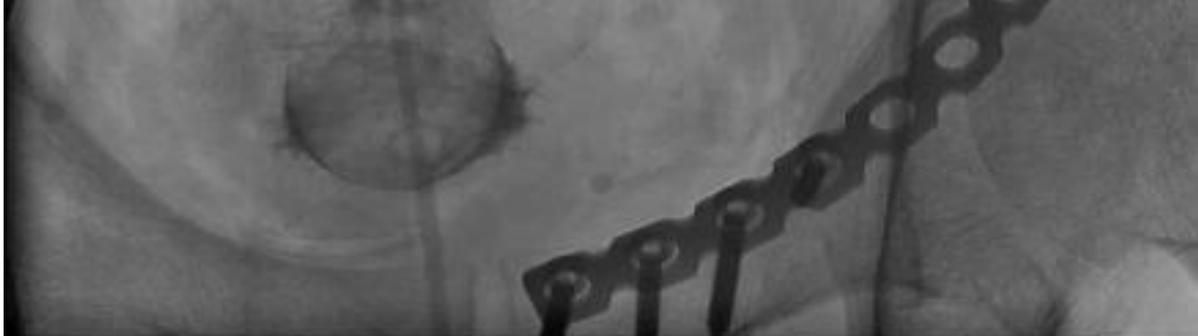
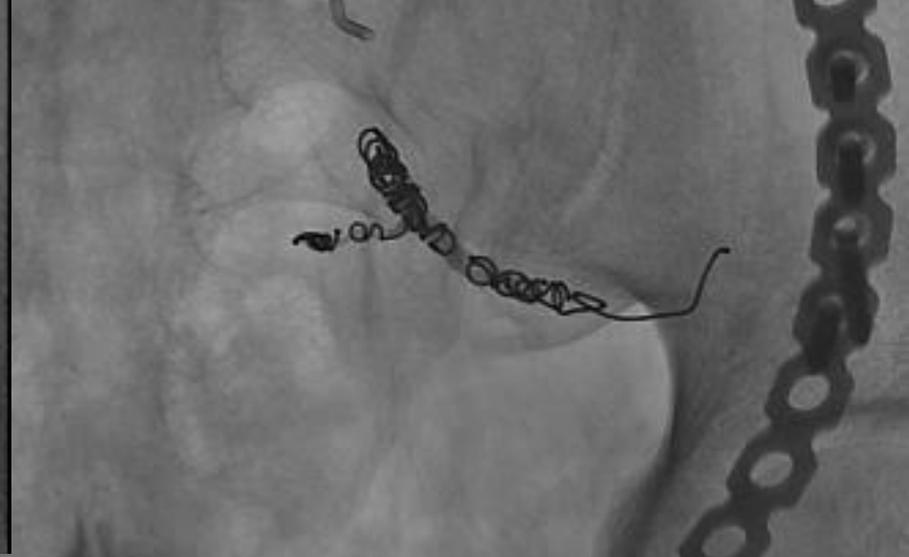
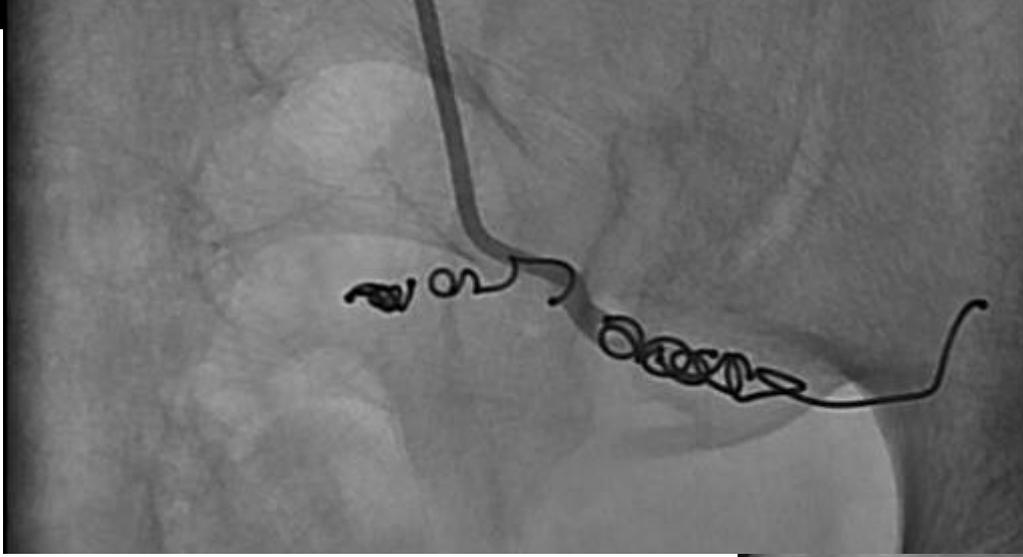
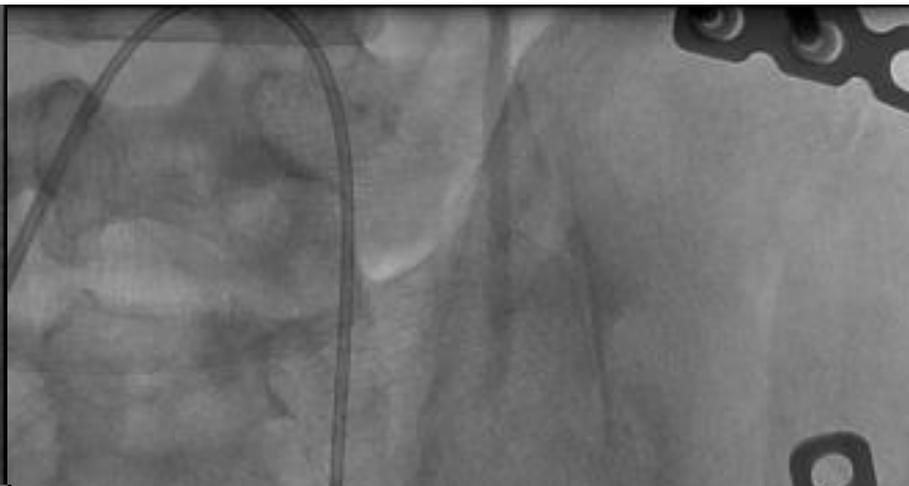
05/11

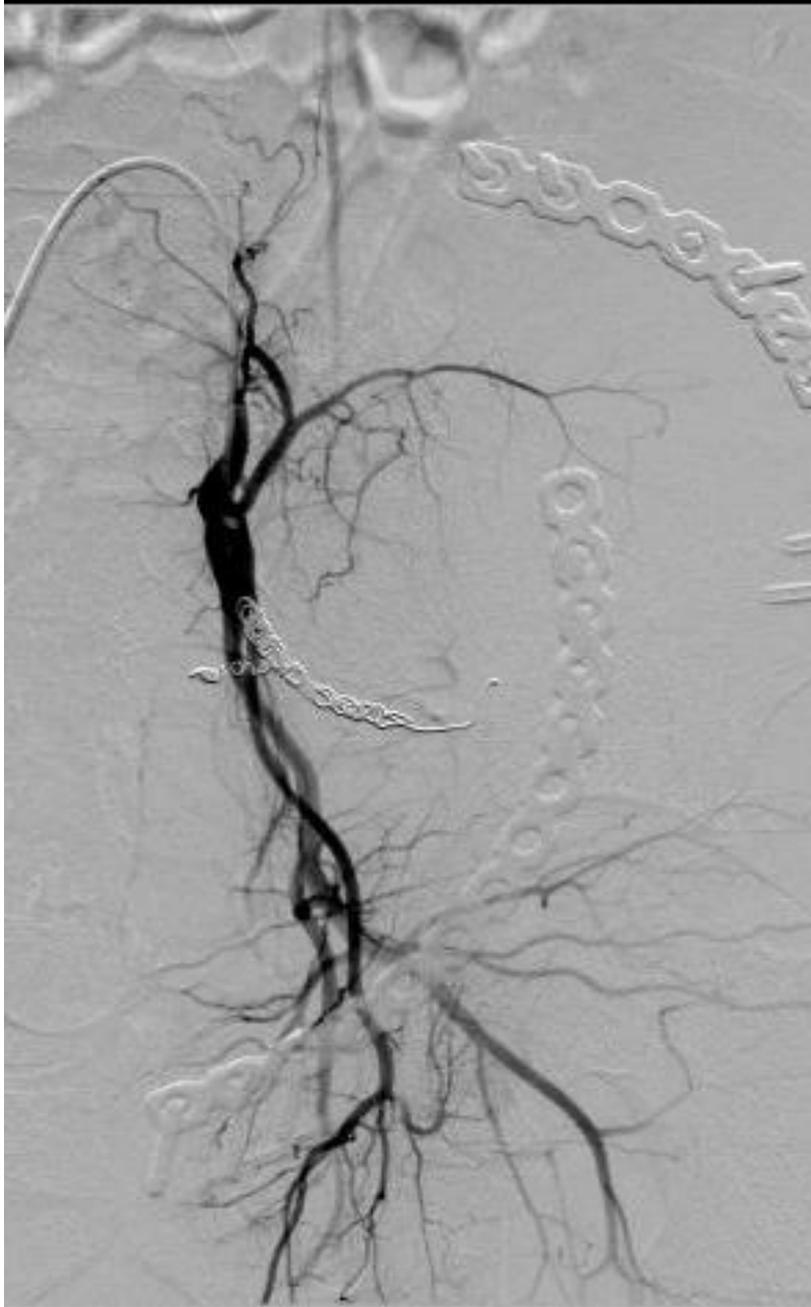












- 右大腿動脈よりアプローチ。5.5Frイントロデューサー挿入。
- 骨盤動脈造影を行い左内腸骨領域に仮性動脈瘤を確認。
- ラジフォーカスガイドワイヤー及び5Frコブラ型カテーテルにて左内腸骨動脈を選択。
- 造影にて仮性動脈瘤確認。
- 上臀動脈起始部レベルで描出されるため超選択的造影を行い上臀動脈及び外側仙骨動脈等を造影。
- 外側仙骨動脈分岐部直下レベルで仮性動脈瘤が描出される。
- マイクロカテーテルシステムを用い仮性動脈瘤基部への挿入を試みるも細すぎて入らず。
- 親動脈塞栓をすることにし、まず外側仙骨動脈分岐後の上臀動脈に対し5mm径/50mm長のプラチナコイル、次に4mm径/30mm長のプラチナコイルを2本挿入。
- 尚、コイルプッシャーとしてハナコストレートガイドワイヤーを使用している。
- 次に2mm/4mmボルテックスコイルを2本、外側仙骨動脈に塞栓。
- 次に上臀動脈近位部に3mm/6mmボルテックスコイルを順次3本挿入し造影にて仮性動脈瘤消失を確認手技を終了した。